

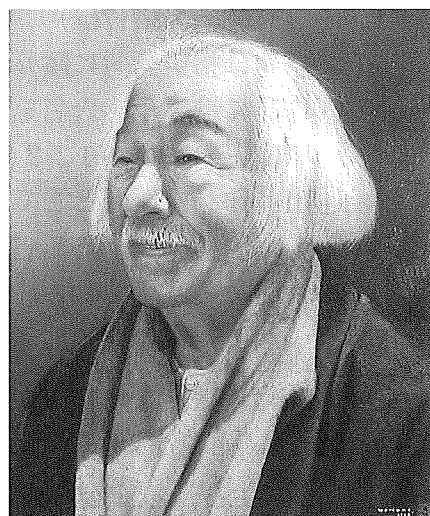
第34回蘇峰会静岡県書道展

開催要項

本書道展は財団法人蘇峰会が徳富蘇峰先生の偉業を顕彰し、あわせて青少年の健全育成を図り、また書道の発展に寄与することを目的に毎年実施しているものです。徳富蘇峰先生は江戸末期の文久3年(1863)に熊本に生まれ、昭和32年(1957)に95歳でその生涯を終わるまで、明治・大正・昭和の3代にわたって先覚ジャーナリストとして活躍されました。

その足跡をたどりますと、明治20年に「国民の友」を創刊、同23年には国民新聞社を創立、社長兼主筆として活躍しました。昭和18年には幾多の功績によって文化勲章を授与されました。先生の全百巻からなる『近世日本国民史』は不朽の名著です。

先生は静岡県とも深い関わりを持たれており、熱海の晩晴草堂にて天寿を全うされました。その薫陶を受けた方々も多く、その人たちを中心に蘇峰会が結成され今日に至っております。



徳富蘇峰翁

- 主 催／(財)蘇峰会・静岡新聞社・静岡放送
(財)駿府博物館
- 後 援／静岡県・静岡県教育委員会・静岡市・静岡市教育委員会
静岡県書道連盟
- 展覧会場／静岡市葵区紺屋町15-4 駿府博物館
- 会 期／平成23年3月24日(木)～3月28日(月)

〈応募要項〉

(1) 応募資格

園児・小学生・中学生・高校生・大学生・一般で、県内に在住する方

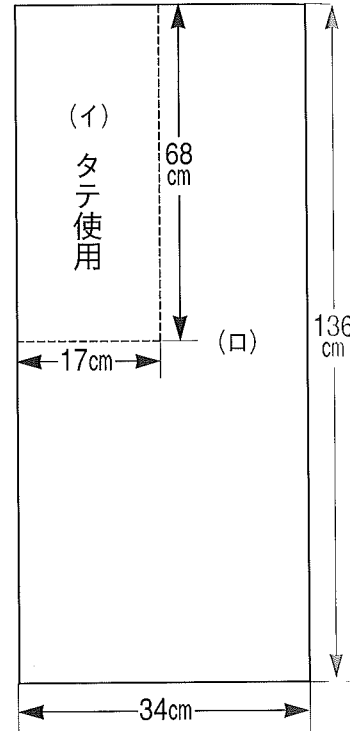
(2) 応募規定

(イ) 園児・小・中・高校生の部

- ①毛筆で一人1点、大きさは半切画仙紙の4分の1
(縦68cm×横17cm)
- ②語句は指定語句に限ります
- ③作品には学年・氏名を記入して下さい
(園児および小1、2年生までは名前のみでも可)
- ④出品作品は原則として返却いたしません

(ロ) 大学生・一般の部

- ①毛筆で一人1点、大きさは半切画仙紙(縦136cm×横34cm)
- ②表装・仮表装・裏打ちはしないで下さい
- ③語句は指定語句の中から、自由に選んで下さい
- ④作品の返却希望者は、出品目録に『返却希望』と明記して下さい
(“着払い”で返送します)



◆ 共通事項 (園児～一般)

- ①代表者は必ず出品目録(別紙)を作成し、作品とともに提出して下さい。個人で出品される場合も同様とします
- ②作品裏側に氏名(フリガナ)を楷書で必ず明記して下さい(鉛筆書きのこと)
- ③出品作品の搬入は出品者の責任で行って下さい(郵送可)

(ハ) 上記規定外の作品は失格とします

(ニ) 出品料 ※園児・小・中・高校生……………200円
※大学生・一般……………500円

作品に出品料を添え、直接または郵送(宅配便)で書道展事務局に納入して下さい
切手での納入はお断わりします

(ホ) 募集受付期間 平成23年1月29日(土)～2月4日(金)(当日消印有効)

(ヘ) 応募先(問い合わせ先)

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町15-4 静岡新聞SBS紺屋町別館

蘇峰会静岡県書道展事務局 ☎054-252-0113 (9:00～17:00)

(3)審 査

審査は静岡県書道連盟に委嘱します

(4)入賞発表

平成23年2月18日(金) 静岡新聞朝刊紙上で発表します(予定)

(ただし、優秀賞は後日、賞状の発送をもって発表に代えさせていただきます)

(5)表 彰 式

平成23年3月27日(日) 静岡 新聞放送会館18階「蘇峰ホール」

(場所は静岡市駿河区登呂3丁目1-1 静岡新聞社)

※表彰式への出席は、会場の関係で奨励賞以上の方に限定します

(6)賞

徳富蘇峰賞	6点
静岡県知事賞	1点
静岡市長賞	1点
静岡県教育委員会教育長賞	3点
静岡市教育長賞	3点
蘇峰会賞	5点
静岡新聞社・静岡放送社長賞	5点
駿府博物館長賞	5点
静岡県書道連盟会長賞	5点
静岡県書道連盟賞	7点
審査委員会賞	7点
奨励賞	7点
優秀賞	全作品の10%相当

※出品者全員に参加賞をさしあげます

(7)指定語句

園児	よいこ
小学1	はつひ
2	すごろく
3	かるた会
4	新しい年
5	正月の空
6	立志の春
中学1	早春の海
2	初光の富士
3	遠山雪景色
高校	敬徳之恪也
(1年～3年共通・書体自由)	
一般(大学生)	
①	水流山静見閑身 林影溪光静自如
②	奔放藁科川 誰能治水全 挺身卅六士 功德千秋傳 (徳富蘇峰 駿府博物館所蔵)
③	わが心うららかなれば富士の山 今日明らかに見ゆるものかも (北原白秋)
④	よしの山霞のおくはしらねども 身ゆるかぎりは桜なりけり (八田知紀)

●高校と一般の部の指定語句の「読み」と「意味」

高校〔読み〕 敬は徳の恪なり

〔意味〕 心につつしみをもつ敬は、徳をあらわすつつしみである

一般

①〔読み〕

水流れ山静かに閑身を見る 林影溪光静にして自如

〔意味〕

水はおのずから流れ山はおのずから静かに自然にひまな身なることを知られる。林の影に谷の色、静かで平静でよい

②〔読み〕

奔放たり藁科川 誰かよく治水を全うせん
身を挺す卅六士 功德千秋に伝う

〔意味〕

大水が出れば暴れ川となる藁科川。誰がよく治水の難事業をなし遂げ得ようか。身を挺にしてこれと取り組んだ三十六人の功績は、永く後世に伝わっている

③〔意味〕

自分の心が何の屈託もなくのびのびとしている
せいかな、今日の富士山は晴々とした様子に見えるものだなあ

④〔意味〕

吉野山のおくがどうなっているかは知らないけれど見渡すかぎりは桜の花盛りだ